

刊行のことば

創立百周年を四年後に控え、その嚆矢となる『神奈川大学百年史 資料編Ⅰ』を刊行する運びとなりましたことは、学長といたしましてこの上のない喜びに存じております。

創立者の米田吉盛先生が、多くの賛同者の協力を得て本学の前身である横浜学院を開設したのは、米田先生が弱冠二十九歳の時でした。以来、一世紀もの永きにわたり神奈川の地に根を張り、卓越した研究に基づく教育重視の伝統を堅持して、開港の地「横浜」から世界に伍する有為な人材を世に送り出してまいりました。そして現在、文系理工系を合わせて、十一学部八研究科を有する総合大学として多くの先輩方そして教職員のご協力により発展を遂げました。

その道のりは決して平坦なものではありませんでした。本学の歴史は、戦前、戦中、戦後という正に激動の「昭和」の歴史と共にあったと言っても過言ではないと思います。戦中には、本学で学ぶ多くの学徒を戦禍に失い、一九六〇年代後半には全国で盛んになった大学紛争の嵐に本学も巻き込まれることとなりました。数年間に及ぶ激しい紛争の時期を経て、ようよう学内の平穏を取り戻すなど、辛く、しかし忘れてはいけな歴史を刻んできました。その後、「平成」、「令和」と時代は移ろいましたが、いかなる時代にあっても、「質実剛健・積極進取・中正堅実」な人材を育成するという建学の精神は堅持され、今日に至っています。

また、米田先生の発案で、他の大学に先駆けて行われた、地方試験会場を設けての入学試験の実施、

さらには自身の苦学の経験により優秀な学生に高等教育を受ける機会を与え、学生全体への意欲や学力の向上、ひいては学校全体のレベルの向上を意図して創設され、今や九十余年の歴史を有する「給費生制度」は、本学の特色ある奨学生選考のための試験として将来にわたっても永く受け継がれていくものと思います。

一九八九（平成元）年、創立六〇周年記念事業の大きな柱として、平塚（のちに「湘南ひらつか」に改称）キャンパスが開設され、経営学部と理学部を設置し教育・研究の成果を上げてきました。二〇一九（令和元）年に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により世界中が混乱する中、本学においてはみなとみらいキャンパスが開設され、二〇二三（令和五）年には残念ながら湘南ひらつかキャンパスは閉鎖となりましたが、すべての教育・研究環境が横浜に集結し、百周年とその先の未来に向け新たな歴史を刻み始めました。

本書がこれまで刻まれてきた歴史を振り返り、新たな歴史を刻むための一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、これまで神奈川大学の歴史を刻んで来られた先人の方々、そして本誌の刊行にご尽力いただいたすべての皆様に心からの感謝と敬意を表したいと思います。

二〇二四（令和六）年三月

神奈川大学長 小熊 誠